

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	メデカジャパン		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 3F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700349&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人がゆったりとした時間や空間で職員とともに笑い楽しみ、また悲しみも一緒に感じられるように毎日を過ごして頂ける支援をしています。また、季節感が感じられるよう、食事や入浴、掲示板や居室などの写真や飾りを取り入れたり、イベントを企画したりして、そよ風で楽しく生活を送って頂けることにも力を入れて支援しています。センターの前で畑をお借りし、その季節に採れる新鮮な野菜を味わって頂いたり、緑いっぱいの環境を存分に感じて頂けるようにも努めています。これからも利用者様にご自分のペースで生活、毎日を過ごして頂けるよう、ご希望や要望を聞いたり、ご希望を聞きだせるような声かけの工夫など、職員間で情報共有をし協力しあって、ゆったりと自由な時間を過ごして頂くようにしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて理念を声に出し、唱和することにより、認識を新たにし、サービスやケアの向上につとめている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会やお祭りへの参加やお手伝い、又、そよ風文化祭などのイベントへのお誘いをし、散歩等でお会いする方には積極的に挨拶をするなど、コミュニケーションを図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招いて認知症ケアサポーター講座を開いたり、今月末には地域の中学生へ講座の進行役を任されている。以前は月に一度、介護者の集いを開催していたが、最近はできていないので地域の方を招き、運営推進会議を開催し、参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告をし、毎月の行事報告などをさせて頂き、他施設での現状や意見などを聞かせて頂き、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議が開催される場所をして協力、参加する事で、地域包括の方と連絡を密にとっている。右京サービス事業連絡会やケアマネ連絡会などに参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関はオートロックになっているが、館内においては各階の職員が連絡を取り合う事により、利用者様が自由に行き来して頂いている。就寝時の四点柵については、安全の為やむを得ない場合、ケアカンファレンスを開き、少しでも拘束される時間が少なくなるように話しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力を含め、虐待が見過ごされることのないよう、スタッフ間での声掛けを行い、常に注意を払っている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 (3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方もおられるが、スタッフ全体としてはまだ知識がうすいと思うので研修に参加し知識を増やしたり、また、研修内容をスタッフに周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明をさせて頂き、理解して頂けるよう努めている。又、不安や疑問点がある時はその都度、センター長の方から説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、その中で意見を頂いたり、来訪された際に会話の中で、色々ご意見をお聞きし、反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議があり、職員の意見の場として反映させているが、反映されていないと感じている職員もいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員にヒアリングなどして努めているが、代表者はスタッフ各個人からのSOSがなければ、気づいてもらえない環境と感ずることがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の能力が発揮できるよう、内外の研修に参加できるよう体制づくりをしている。新人研修についても、専任をつけ、報告書を提出してもらおうなど工夫していきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や親睦会が開催され参加することで交流をはかっているが、もう少し参加人数が増えればと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からのお話をよくお聞きし、少しでも不安を取り除けるように努めている。又、お聞きした情報をノートに残し、スタッフが共有、ご本人の安心につながるよう努めている。入居前には見学等もして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター長が実調を行い、家族様からよくお話を聞き、今、困っておられることや、要望を聞き取りお応えできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分にお話をお聞きし、今、何が必要としているのかを見極め、他のサービスの利用も含め、選択している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にはできること(掃除、洗濯、食事準備等)をして頂き、できないことを一緒に手伝うようにしている。また、利用者様の意見を尊重し、信頼関係を深め、より良い生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況や変化があった時等はすぐにお伝えすること共にそよ風だよりでも近況報告させて頂いている。昼食を共にたべて頂いたり、施設内のイベントへのお誘い、また、年に一度大文字の送り火には家族会を開き、家族様同士の交流もして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご友人や親戚の方が来訪された時には居室やリビングにてご本人とゆっくりくつろいでお話できるように心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、バイオリン等、皆様に楽しんで頂ける様、声かけをしたり、利用者様同士の関係を把握、スタッフ間で意見を共有し、楽しく生活できるよう、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、入院された方のお見舞いに伺ったり、退去された方の家族様がピアノコンサートを開いて下さったりしている。退去された後も年賀状や暑中見舞いをお出ししたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご希望に添えられるよう、個別対応の時間やその時の会話を大切にしたり、日常の些細な事もご本人が選んで決めて頂けるよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報をを共通認識し、また、ご本人からも過去のお話や思い出などをお聞きしながらご本人らしい生活が続けて送っていただけるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の一日の過ごし方や現在の状況をスタッフ全員で把握できるよう、申し送りノートや介護記録等を作成したり、伝達、ご本人の声かけも合わせて行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにてスタッフと意見を出し合い、より良い生活が送れるように介護計画を作成している。家族様にはサービス提供書にご希望を記入して頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、毎朝毎夕の申し送りにて、またノートの記載等により、情報を共有すると共にカンファレンスにて意見を出し合い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同グループ内でのデイサービスの機械浴や大浴場の利用をの機会をもう少し、増やしていきたい。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 (3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や警察、消防などの関係各機関との連携を図り支援させて頂いている。また、地域ケア会議の場として活用して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回提携病院の往診、歯科医の往診に加え、ご自宅におられた時のかかりつけの眼科や認知症専門医の受診されたりしている。合わせて、医療、スタッフとの連携を図り利用者様の健康管理に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に相談、指示をして頂き対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた時には病院との情報交換を蜜に行い、また退院後も病院側からサマリーを頂き、退院後の生活に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施されているターミナルケアの勉強会に参加している。また、参加していないスタッフにも書面や全体会議の場にて内容報告や報告発表をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による訓練や赤十字救急法講習等の訓練を希望により参加したり、全体会議で話し合い、訓練を行っているが、スタッフ全員が対応できる実践力にはなっていないので、もう少し訓練の機会や研修の参加を全員にいきわたるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練、また年に数回、消防署から来て頂き、訓練を行っている。参加できなかった職員には後日、書面にて、内容報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについて、接遇マナーの勉強会を行い、全体会議等で共通意識を高めている。特に入浴やトイレ介助の際には、常に人として、年長者の方の誇りやプライバシーを損ねることのない声かけをしないよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたいものを選んで頂いたり、その日着る服をご自身で選んで頂けるような工夫や声かけを行うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中において利用者本位に考え、その人らしい生活が送れるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回訪問美容にて、ご本人のご希望に応じ、パーマ、カット、毛染めなどして頂いている。起床時や入浴後には声かけ介助にて整髪、着替え等のお手伝いをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材を仕入れ、調理し季節感を味わって頂いている。また、日常では配膳・盛り付け・簡単な調理(できる方は包丁も使って頂いている)等、できる限りお手伝いをお願いしたり、スタッフも同じテーブルと一緒に食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量や水分量を記録し、1日トータルでケアをしている。一人一人の状況により、量を加減したり、食べやすい大きさ等の工夫、脂肪分を制限、薬剤の関係で摂取してはいけない食品等、配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯に食べ物のカスが溜まりやすい方は、毎食後声かけや誘導を行い、口腔ケアして頂いているが、全員の方にして頂く様、努めていきたい。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 (3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンを把握し、その方に応じたトイレ誘導や声かけを行っている。また、パットを使用されている方は定期的に交換を行い、少しでもトイレで排泄して頂ける様に声かけの工夫、タイミングなども含めて自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、冷水を起床時に毎朝提供したり、芋類や根菜類などを毎回料理に取り入れるなど、極力薬に頼らないように便秘の解消につとめている。また、運動不足にならないよう歩行訓練も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ多くの方に入浴して頂けるよう、時間の工夫をしている。少しでも楽しんで頂ける様、入浴剤の使用やゆず風呂をしたり、利用者様のご希望や好みに合わせて湯温や湯量を調整したりしている。入浴の時間帯についてはご希望に添えるよう努力していきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の睡眠パターンがあるのでその方に適した時間に入床して頂いている。また、起床についてもご本人の意思を尊重し、個別対応している。また、ご自身でご希望を伝えられない方に関しては昼間臥床して頂く時間を作ったり、その方に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にスタッフ全員が目を通し、内容などについてよく認識し、また服薬については十分な注意をはらい、間違えないよう、日付や利用者様名を声だし確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力や得意なことを引き出したり、残存能力を維持できるように発揮できる場面作りをして、そよ風での生きがいや喜び、充実した日々を送って頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩を楽しんで頂ける様に配慮し、一人一人の希望に添えられるように個別対応にて外食や外出に取り組んで出かけて頂いているが、もう少し、回数を増やしていけるように工夫していきたい。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 (3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常はご家族様よりお小遣いをセンターが預かっているが、一緒に買い物に出かけたときにはレジ前で見守りのもと、好きなものを購入して頂ける機会や回数をもっと増やしていけるように努めてしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出されたり、電話については見守りのもと、ご友人やご家族とお話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングにお花を飾ったり、廊下に地域の方の絵画を飾っている。また、掲示板には毎月予定が入ったカレンダーを手作りしたり、利用者様居室の表札にも月替わりで四季折々の絵を飾る等、皆様が安心して暮らして頂けるよう季節感を取り入れて工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング端にソファを置いており、TVを見たい方や読書したい方、人と会話を楽したい方等、思い思いの過ごし方ができるように場所を提供している。EVホールの横に本棚や椅子を置き、読書をして頂いたり、オルガンで楽しんで頂けるようなスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのものや家具を持ってきて頂き、その人らしい居室づくりを家族様とともに作りあげている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで手すりも設けられており、利用者様が安全かつ自立した生活が送れるようになっている。		